２）岡崎素子：心臓手術を体験する高齢者の発達的変容の研究，日本看護科学会誌 19(2)，1999.
３）永田久美子：痴呆のある高齢の人々の自己決定を支える看護，老年看護学 2(1)，1997.
４）MathyMezey，Ethel,Mitty & Glolria Ramsey: Assessment of Decision-Making Capacity. Journal of Gerontological Nursing, p28.1997.
５）Raymond Peterson，Marcia Hakendorf，& Tony Guscott. Improving Aged Care Education for Australian Rural Nurses Using Problem-Based Learnig . Journal of Coutinuing Education in Nursing. Vol30(3)，1999.
６）Knowles，M.:The Adult Learner A Neglected Species 4th ed，Gulf Publishing Company，Houston，27-32，1990.
７）Prochaska,J.O.,DiClemente,C.C.,Norcross,J.C.:In search of how people Change.Applications to addictive behaviors, the American Psychologist,47(9),1102-1114,1992
８）Bandura,A. : Social Learning Theory,Englewood Cliffs, New Jersey, Prentice-hill,1977.
９）Bandura,A. : Self-Efficacy:the Exercise of Control, New York, W.H.Freeman and Company,1997.
10）藤田佐和，中野綾美他：看護者が捉えた患者の意志決定の構え，高知女子大学紀要 自然科学編，47，7－17，1997.
11）藤原美真子，川口孝康：末期癌期の「自己決定権」に対する医師・看護婦の認識に関する調査，CNAS Hyougo Bulletin，4，79－85，1997.
12）東清巳：高齢患者の日常生活行動の自己決定に対する認識の実態，日本看護学会集録，第 28 回老人看護，24－27，1997.
13）樋口京子，田川義勝他：在宅療養者の日常生活活動に影響を及ぼす要因の分析，住環境，社会的交流状況，介護者の介護役割意識に焦点を当てて，国際医療福祉大学紀要，3，57－69，1998.
14）伊藤まゆみ，飯田澄美子：消化器手術を受けた高齢者の活動能力と生活状況の変化，保健の科学，41(8)，627－631，1999.
15）岩井郁子：「診療情報開示」に不可欠な視点，看護，51(13)，026－029，1999.
16）森一恵，Kishi Keiko Imai：臨床看護に関する倫理学的考察，香川医科大学看護学雑誌，３（１），11－19，1999.
17）長戸和子：家族の意志決定，臨床看護，25(12)，1788－1793，1999.
18）野嶋佐由美，梶本市子他：血液透析患者の自己決定の構造，日本看護科学会誌，１７（１），22－31，1997.
19）竹内孝仁：ＡＤＬ論，介護基礎学，医歯薬出版，29－33，1998.
20）常磐文枝：外来通院患者の療養上の自己決定とその影響要因，日本赤十字看護大学紀要，13，24－31，1999.

21）宇佐見しおり：地域で生活する精神分裂病者の自己決定に基づくセルフケア行動の実際，看護研究，31(3)，221－234，1998.
22）佐藤冨美子：在宅療養者の自己決定を支える訪問看護婦の認識と方略，日本看護科学会誌，18(3)，96－105，1998.

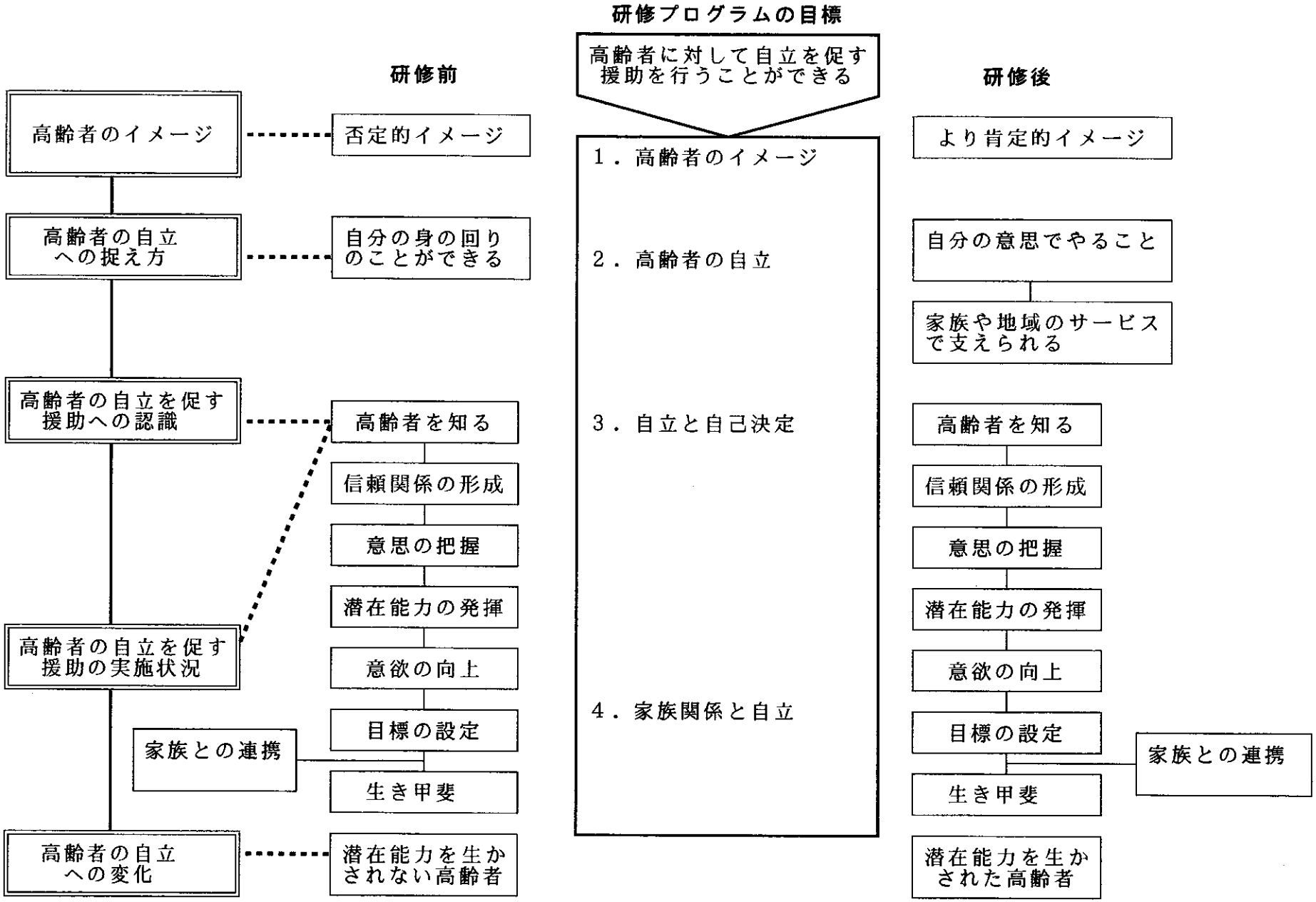
研修プログラムの目標
高齢者に対して自立を促す援助を行うことができる
研修前
研修後
高齢者のイメージ
否定的イメージ
高齢者の自立への捉え方
自分の身の回りのことができる
高齢者の自立を促す援助への認識
高齢者を知る
信頼関係の形成
意思の把握
潜在能力の発揮
意欲の向上
目標の設定
生き甲斐
家族との連携
高齢者の自立を促す援助の実施状況
高齢者の自立への変化
潜在能力を生かされない高齢者
1．高齢者のイメージ
2．高齢者の自立
3．自立と自己決定
4．家族関係と自立
より肯定的イメージ
自分の意思でやること
家族や地域のサービスで支えられる
高齢者を知る
信頼関係の形成
意思の把握
潜在能力の発揮
意欲の向上
目標の設定
生き甲斐
家族との連携
潜在能力を生かされた高齢者

図1　研究の枠組み

資料１．抽出概念・カテゴリーと下位項目

１）高齢者のイメージ

高齢者のイメージとしては、否定的イメージ、肯定的イメージとその他のイメージが抽出された。

否定的イメージには、怖さ、衰え、不安、孤独、切なさ、苛立ちのカテゴリーが抽出された。

(1)怖さでは、①痴呆になるのではないかという怖さがある、②老いることは死に近づくことと感じて怖い、③自分が老いた時に家族が看てくれなかったらと思うと怖い、④漠然たる怖さがある、の項目が集められた。(2)衰えでは、①歩行速度が遅くなる、②すべての機能が衰えいていくが、(3)不安では、①身体的にも精神的にも以前できていたことができなくなるという不安がある、②老いて自分がどうなるのかわからない。(4)孤独では、①孤独になっていく、②老いを徐々に受け入れていかないと、実際老いた時に寂しくなってしまう。(5)切なさは、最終的には家族もいなくて一人一人の生活かと思うと切ない。(6)苛立ちは、自分ではちゃんとやっているつもりでも間違ったり、気づいていてもうまくできないから苛立ちがある、が抽出された。

肯定的なイメージ

肯定的なイメージとしては、(1)苦労の中で培われた自分の意思を持っている。(2)豊かな経験に基づく知恵を持っている。(3)自分の今の状況を受け入れることができて、楽しく暮らしている。(4)周囲にとらわれずに好きなことをやっている。(5)勉強させてもらっている存在である。(6)障害があっても、生き生きして元気である、であった。

その他のイメージとして、(1)誰でもいつかは老いていき、自然の流れで避けられない、や(2)自分自身としての老いを考えたことがなく実感がない、が挙げられた。

２）高齢者の自立への捉え方

高齢者の自立に対する捉え方では、(1)日常生活の中で自分の身の回りのことができる。(2)自分の意思でやること、(3)サービスや家族の支えで自宅で生活する、が抽出された。

(1)日常生活の中で自分の身の回りのことができるでは、①一人で暮らせる、②自分の身の回りのことができる、③車椅子でも日常生活が自分でできるが用意できた、④自分の身の回りのことができて、家族の手をかけさせない。

(2)自分の意思でやることでは、①自分の意思で何かやっている、行える、②本人の中で自分で自立していると思うことが自立である、③誰にも遠慮しないで自己主張できる、④食事や衣服の着脱にも責任をもってもらう、⑤自分で物事を決めること、判断できることである、⑥自分で生きたいように生きられることである、⑦障害あって介護が必要な人も自立の可能性はある、⑧出来るところは自分で行い、出来ないところは助けを求められる、⑨自分の意見があって、家族の意見も受け容れることができる。

(3)サービスや家族の支えで自宅で生活するは、①他の人に手伝ってもらったり、サービスを利用して自立できればよい、②自分ですべてやることが自立ではない、③介護する上での家族の希望ができるようになれば自立である、④家族の協力が必要である、であった

３）高齢者の自立を促す援助への認識

高齢者の自立を促す援助として、(1)高齢者自身を知る。(2)双方の理解を深めて、何でも話せる関係をつくる（信頼関係の形成)。(3)高齢者の意思や要求を把握する。(4)高齢者ができるところは必要以上に介護しない。(5)高齢者のやる気ある気持ちを大事にして、出せる力を出させてあげる。(6)状態を把握した上で、できないところは手伝いながら、段階的に目標をもってレベルアップしてゆく。(7)退所後、デイサービスなどの利用を楽しみや生きがいと考え、通所してくる。(8)高齢者、家族、医療者が同じ方向を向いていることが大切である、が抽出された。

(1) 高齢者自身を知るでは、①高齢者のバックグランドを把握する、②高齢者の現在の状態を把握する、③高齢者とコミュニケーションをとる、④高齢者の言動から主張したいことを理解する、が用意された。

(2) (2)双方の理解を深めて何でも話せる関係をつくる（信頼関係の形成）では、①自分が相手を知って、相手にも自分を理解してもらう、②悩み事でも話せるような関係をつくる、③高齢者が安心して何でも話せる関係をつくる、④家族にも言えないことも言える関係をつくる、⑤自分から話せない、話してこない高齢者に挨拶等声をかける、⑥目線を合わせて、ボデイタッチをする、⑦職員と利用者ではなくて、友達や家族のように親しみを込めて話す、が出された。

(3) 高齢者の意思や要求を把握するには、①本人が何をどうしたいのか、どうなりたいのかを聞いて、それを援助する、②高齢者は何を求めているのか、どんな風に生きたいのかよく判断する、③痴呆の人にもその人なりの生活環境がある、④介護者の要求をぶつけても高齢者個人には迷惑になる、⑤高齢者の要求に気がつかないことがある、⑥高齢者の個人の要望と介護側の思いが異なることがある、⑦高齢者の意思を尊重し、自立心があれば協力するが、そうでなければこちらが思ってもできない、⑧言語障害があってコミュニケーションがとれないと（意思を把握するのは）難しくなる、であった。

(4)高齢者ができるところは必要以上に介護しないは、①自分でできることはやってもらう、②できないことは、言われる前に気づいてあげる、であり、

(5)高齢者のやる気ある気持ちを大事にして、出せる力を出させてあげるでは、①高齢者の立場に立って、上からものを言わないように言葉遣いに気をつける、②自分を基準にしないで、高齢者のペースで援助する。

(6)状態を把握した上でできないところは手伝いながら段階的に目標をもってレベルアップしてゆくでは、①何か作ったり、誰か友達が来るためにここまでになりたい、こうしたいという目標を持つが、

(7)退所後、デイサービスなどの利用を楽しみや生きがいと考え、通所してくるは、①在宅に帰っても体力的に低下しないようにする。が抽出され、

(8)高齢者、家族、医療者が同じ方向を向いていることが大切であるの下位項目は抽出されなかった。

4）高齢者の自立を促す援助の実施状況

自立を促す援助の実施状況では、(1)高齢者自身を知る努力を行っているか。(2)双方の理解を深めて、何でも話せる関係をつくろうとしているか（信頼関係の形成）。(3)高齢者の意思や要求を把握するように努めているか。(4)高齢者ができるところは必要以上に介護しない。(5)高齢者のやる気ある気持ちを大事にして、出せる力を出させてあげる。(6)状態を把握した上で、できないところは手伝いながら、段階的に目標をもってレベルアップしてゆく。(7)退所後、デイサービスなどの利用を楽しみや生きがいと考え、通所してくる。(8)高齢者、家族、医療者が同じ方向を向いていることが大切である、が挙げられた。

(1)高齢者自身を知る努力を行っているかは、①高齢者のバックグランドを把握しているか、②高齢者の現在の状態を把握しているか、③高齢者とコミュニケーションをとっているか、④高齢者の言動から主張したいことを理解しようとしているか、であり、

(2)双方の理解を深めて何でも話せる関係をつくろうとしているか（信頼関係の形成）は、①自分が相手を知って、相手にも自分を理解してもらおうとしているか、②悩み事でも話せるような関係をつくろうとしているか、③高齢者が安心して、何でも話せる関係をつくろうとしているか、④家族にも言えないことも言える関係をつくろうとしているか、⑤自分から話せない、話してこない高齢者に挨拶等声をかけているか、⑥目線を合わせて、ボデイタッチをするようにしているか、⑦職員と利用者ではなくて、友達や家族のように親しみを込めて話すようにしているか、であった。

(3)高齢者の意思や要求を把握するように努めているかは、①本人が何をどうしたいのか、どうなりたのかを聞いて、それを援助するようにしているか、②高齢者が何を求めているのか、どんな風に生きたいのか判断するようにしているか、③痴呆の人にもその人なりの生活環境がある、④介護者の要求をぶつけても高齢者個人には迷惑になる、⑤高齢者の要求に気がつかないことがある、⑥高齢者の個人の要望と介護側の思いが異なることがある、⑦高齢者の意思を尊重し、自立心があれば協力するが、そうでなければこちらが思ってもできない、⑧言語障害あってコミュニケーションがとれないと（意思を把握するのは）難しくなる。

(4)高齢者ができるところは必要以上に介護しないは、①自分でできることはやってもらう、②できないことは、言われる前に気づいてあげる、であり、

(5)高齢者のやる気ある気持ちを大事にして、出せる力を出させてあげるは、①高齢者の立場に立って、上からものを言わないように言葉遣いに気をつける、②自分を基準にしないで、高齢者のペースで援助する。

(6)状態を把握した上で、できないところは手伝いながら段階的に目標をもってレベルアップしてゆくは、①何か作ったり、誰か友達が来るためにここまでになりたい、こうしたいという目標を持つ。

(7)退所後、デイサービスなどの利用を楽しみや生きがいと考え、通所してくるは、①在宅に帰っても体力に低下しないようにする。

(8)高齢者、家族、医療者が同じ方向を向いていることが大切であるの下位項目は用意できなかった。

5）高齢者の変化について

良い方向への変化

良い方向への変化としては、(1)楽しそうにしたり表情が変わる。(2)コミュニケーションがとれるようになる。(3)ADL が拡大し、在宅へ移行できた(4)褥創が治癒した。(5)家族との連携、(6)亡くなった後の家族からの感謝が挙げられた。

(1)楽しそうにしたり表情が変わるでは、①高齢者がとても楽しそうに見える、②話したり、散歩などの関わりによって表情が変わるが、(2)コミュニケーションがとれるようになるでは、①高齢者の方から昔話などをしてくれる、の下位項目が挙げられた。

(3)ADL が拡大し在宅へ移行できたでは、①歩けないで入所した人が、本人のがんばりと家族の協力で歩いて帰れた②自分で立ち上がれなかった人が、車椅子に乗れるようになった、③歩行できなかった人が、歩行器を使って自宅へ帰った、④寝たきりだった人が、歩ける状態まで快復し自宅へ戻った、⑤退所後、閉じこもりなく、通所で姿を見た、⑥自分でやろうという意思が出たり、ADL が広がった、⑦自分で食べようとしなかった高齢者が、自分で食べるようになった。

(4)褥創が治癒したは下位項目がなく、(5)家族との連携では、①家族にも一緒に介護の仕方を工夫した、②家族と密に連絡を取り合って、深い話し合いができる、③家族と一緒の方向で考えられるが、(6)亡くなった後の家族からの感謝では、①高齢者は亡くなったが、家族から感謝された、②亡くなってもここは良かったと高齢者が言っていたと聞いた、が挙げられた。

悪い方向への変化

悪い方向への変化としては、(1)不本意な入所による高齢者の精神への影響、(2)高齢者にとっての環境の変化による精神面での影響、(3)コミュニケーションが図れない人に対する理解があった。

(1)不本意な入所による高齢者の精神への影響では、①施設の生活に適応できない、②心を閉ざしている、③こんなはずではなかったと本人が納得していない、が挙げられ、(2)高齢者にとっての環境の変化による精神面での影響では、①環境の変化によって意欲がなくなってしまう、②痴呆が出現する、③環境の変化に適応できない。(3)コミュニケーションが図れない人に対する理解は、①引きこもって相手との接触を断っている、②怒り出す、③孤立するであった。

家族との調整

良否を判断できないものとして、高齢者本人とその家族の意思の調整が挙げられ、①在宅可能なのに、家族が高齢者を呆けていると判断して理解してもらえない、②本人の思いと家族の思いが一致しない、③本人は家に帰りたいのに、家族がそうさせない、が下位項目として用意した。

表1　対象者の概要

	年齢	性別	介護経験	施設経験	雇用	日数	資格	学歴	同居経験	評価研究参加者
1	52	女性	9ケ月	9ケ月	非常勤勤務	3日/週	ホームヘルパー2級	高等学校卒	経験あり	
2	47	女性	2年5ケ月	9ケ月	非常勤勤務	4日/週	ホームヘルパー1級	一般短大卒	経験なし	
3	50	女性	4ケ月	4ケ月	非常勤勤務	5日/週	ホームヘルパー2級	一般短大卒	経験あり	
4	39	女性	6ケ月	6ケ月	非常勤勤務	5日/週	ホームヘルパー2級	高等学校卒	経験あり	
5	21	女性	9ケ月	9ケ月	常勤勤務		介護福祉士	福祉系短大卒	経験なし	
6	25	男性	4ケ月	4ケ月	非常勤勤務	5日/週	ホームヘルパー2級	一般大学卒	経験なし	○
7	22	女性	1年9ケ月	9ケ月	常勤勤務		介護福祉士	福祉専門学校卒	経験あり	
8	49	女性	1年	1年	非常勤勤務	5日/週	ホームヘルパー2級	一般大学卒	経験なし	○
9	44	女性	8ケ月	8ケ月	常勤勤務		看護婦(士)	看護婦学校卒	経験なし	
10	25	女性	1年	1年	非常勤勤務	4日/週	介護助手(資格なし)	一般大学卒	経験なし	○
11	55	女性	3年11ケ月	11ケ月	常勤勤務		ホームヘルパー2級	高等学校卒	経験なし	○
12	22	男性	8ケ月	8ケ月	常勤勤務		レクレーションワーカー、ホームヘルパー1級	福祉専門学校卒	経験なし	
13	40	女性	―――	4ケ月	非常勤勤務	1～2日/週	看護婦(士)	看護婦学校卒	経験なし	
14	20	女性	8ケ月	8ケ月	常勤勤務		介護福祉士	福祉専門学校卒	経験なし	
15	29	女性	3年	9ケ月	常勤勤務		ホームヘルパー2級	福祉専門学校卒	経験なし	
16	41	女性	2年	11ケ月	常勤勤務		ホームヘルパー2級、幼稚園教諭1級	一般大学卒	経験あり	○
17	29	女性	―――	9ケ月	常勤勤務		准看護婦(士)	准看護婦学校卒	経験なし	
18	48	女性	―――	1年	非常勤勤務	5日/週	ホームヘルパー2級	高等学校卒	経験あり	○
19	47	女性	―――	9ケ月	常勤勤務		看護婦(士)	看護婦学校卒	経験なし	
20	20	男性	11ケ月	11ケ月	常勤勤務		介護福祉士	福祉専門学校卒	経験なし	○
21	61	女性	30年	11ケ月	常勤勤務		准看護婦(士)	准看護婦学校卒	経験なし	○
22	23	男性	8ケ月	8ケ月	常勤勤務		レクレーションワーカー、ホームヘルパー1級	福祉専門学校卒	経験あり	
23	51	女性	5年2ケ月	11ケ月	常勤勤務		介護福祉士、ホームヘルパー2級	高等学校卒	経験なし	○
24	28	女性	2年3ケ月	9ケ月	非常勤勤務	3日/週	介護助手(資格なし)	高等学校卒	経験あり	
25	43	女性	6ケ月	6ケ月	常勤勤務		准看護婦(士)	准看護婦学校卒	経験なし	
26	34	女性	8年11ケ月	9ケ月	常勤勤務		看護婦(士)	看護婦学校卒	経験なし	○
27	26	女性	1ケ月	10ケ月	常勤勤務		―――	福祉系大学卒	経験あり	
28	33	女性	0ケ月	1ケ月	非常勤勤務	4日/週	―――	―――	経験なし	
29	40	男性	0ケ月	8ケ月	常勤勤務		事務職	一般大学卒	経験あり	
30	29	女性	―――	9ケ月	常勤勤務		事務職	福祉専門学校卒	経験あり	
31	45	女性	0ケ月	6ケ月	常勤勤務		事務職	一般短大卒	経験あり	
32	35	女性	―――	4ケ月			―――	福祉専門学校卒	経験あり	
33	63	女性	3年	9ケ月	非常勤勤務	4日/週	ホームヘルパー2級、事務職	一般大学卒	経験あり	
34	36	女性	1年	1年	非常勤勤務	3日/週	ホームヘルパー2級	専門学校卒	経験なし	○
35	23	男性	8ケ月	8ケ月	常勤勤務		ホームヘルパー1級	福祉専門学校卒	経験なし	
36	62	女性	3ケ月	3ケ月	非常勤勤務	3日/週	准看護婦(士)	准看護婦学校卒	経験なし	○
37	53	女性	1ケ月	1ケ月	非常勤勤務	5日/週	ホームヘルパー2級	高等学校卒	経験あり	
38	49	女性	11ケ月	11ケ月	非常勤勤務	5日/週	ホームヘルパー2級	高等学校卒	経験なし	○
39	26	女性	26年3ケ月	3ケ月	非常勤勤務	5日/週	ホームヘルパー2級	その他	経験なし	
40	35	男性	6年	1年	常勤勤務		ケアマネージャー	福祉専門学校卒、一般短大卒	経験あり	○
41	53	女性	1年	6ケ月	非常勤勤務	3日/週	准看護婦(士)	高等学校卒	経験あり	
42	44	女性	2年	11ケ月	常勤勤務		介護福祉士	一般大学卒	経験あり	○
43	21	女性	9ケ月	9ケ月	常勤勤務		介護福祉士	福祉専門学校卒	経験なし	
44	26	男性	10ケ月	10ケ月	常勤勤務		介護福祉士	福祉専門学校卒、一般大学卒	経験あり	○
45	58	女性	20年	4ケ月	非常勤勤務	5日/週	准看護婦(士)	准看護婦学校卒	経験なし	
46	64	女性	5ケ月	5ケ月	非常勤勤務	4日/週	その他	高等学校卒	経験なし	○
47	32	女性	10年	1年	常勤勤務		社会福祉士、介護福祉	福祉専門学校卒	経験あり	○
48	21	女性	9ケ月	9ケ月	常勤勤務		介護福祉士	福祉専門学校卒	経験あり	
49	21	男性	11ケ月	11ケ月	常勤勤務		介護福祉士	福祉専門学校卒	経験あり	○
50	28	男性	8ケ月	8ケ月	常勤勤務		―――	一般大学卒	経験あり	
51	45	男性	8ケ月	8ケ月	常勤勤務		―――	一般大学卒	経験あり	
52	42	女性	―――	8ケ月	常勤勤務		准看護婦(士)	准看護婦学校卒	経験なし	
53	26	女性	1ケ月	1ケ月	非常勤勤務	5日/週	ホームヘルパー2級	服飾専門学校卒	経験なし	○
54	69	女性	28年	11ケ月	非常勤勤務	4日/週	看護婦(士)	看護婦学校卒	経験あり	○
55	40	女性	2ケ月	2ケ月	非常勤勤務	4日/週	ホームヘルパー2級、保母	福祉専門学校卒	経験なし	
56	23	女性	11ケ月	11ケ月	常勤勤務		介護福祉士、レクレーションワーカー、ホームヘルパー1級、介護サービスアテンド士、アクティビィティワーカー	福祉専門学校卒	経験なし	

表2 対象者の属性 N＝57

資格	種類	度数	(%)
	社会福祉士	1	(1.8)
	介護福祉士	11	(19.3)
	看護婦(士)	5	(8.8)
	准看護婦(士)	7	(12.3)
	レクリエーションワーカー	2	(3.5)
	ケアマネージャー	1	(1.8)
	ホームヘルパー1級	2	(3.5)
	ホームヘルパー2級	16	(28.1)
	事務職	3	(5.3)
	介護助手(資格なし)	2	(3.5)
	その他	1	(1.8)
	不明	6	(10.5)

学歴	種類	度数	(%)
	高等学校卒	10	(17.5)
	福祉専門学校卒	17	(29.8)
	福祉系短大卒	1	(1.8)
	福祉系大学卒	1	(1.8)
	准看護婦学校卒	6	(10.5)
	看護婦学校卒	5	(8.8)
	看護系短大卒	0	(0.0)
	看護系大学卒	0	(0.0)
	一般短大卒	3	(5.3)
	一般大学卒	9	(15.8)
	その他	3	(5.3)
	不明	2	(3.5)

表3－1　高齢者、老化に対する意識　　(%)は有効パーセント

Q1. 高齢者についてあなたの考えや思いに最も近い番号に○をつけてください。

	N	そう思わない 度数（%）	あまり思わない 度数（%）	どちらとも言えない 度数（%）	少し思う 度数（%）	そう思う 度数（%）
1.1 機能が衰えていく	56	0 (0.0)	1 (1.8)	2 (3.6)	20 (35.7)	33 (58.9)
1.2 苦労の中で培われた自分の価値観を持っている	56	0 (0.0)	0 (0.0)	6 (10.7)	13 (23.2)	37 (66.1)
1.3 自分ではやっているつもりでも間違うことがある	57	2 (3.5)	2 (3.5)	11 (19.3)	24 (42.1)	18 (31.6)
1.4 孤独になっていく	57	4 (7.0)	4 (7.0)	13 (22.8)	17 (29.8)	19 (33.3)
1.5 家族や社会とさまざまに関わりあって生活している	56	0 (0.0)	6 (10.7)	19 (33.9)	8 (14.3)	23 (41.1)
1.6 自分の理想とする老い方の人がいる	57	3 (5.3)	7 (12.3)	7 (12.3)	13 (22.8)	27 (47.4)
1.7 豊かな経験に基づく知恵を持っている	56	2 (3.6)	2 (3.6)	5 (8.9)	15 (26.8)	32 (57.1)
1.8 今の状況を受け入れ楽しく暮らしている	56	3 (5.4)	10 (17.9)	31 (55.4)	10 (17.9)	2 (3.6)
1.9 老いると死に近づく	57	5 (8.8)	2 (3.5)	7 (12.3)	22 (38.6)	21 (36.8)
1.10 勉強させてもらっている存在である	55	1 (1.8)	1 (1.8)	6 (10.9)	12 (21.8)	35 (63.6)
1.11 障害があっても、生き生きして元気である	53	2 (3.8)	4 (7.5)	21 (39.6)	16 (30.2)	10 (18.9)
1.12 誰でもいつかは老いて行く自然の流れは避けられない	56	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.8)	2 (3.6)	53 (94.6)

Q2. 自分が老いることについてあなたの考えや思いに最も近い番号に○をつけてください。

	N	そう思わない 度数（%）	あまり思わない 度数（%）	どちらとも言えない 度数（%）	少し思う 度数（%）	そう思う 度数（%）
2.1 最終的には家族もなく一人の生活かと思うと切ない	57	10 (17.5)	11 (19.3)	7 (12.3)	10 (17.5)	19 (33.3)
2.2 自分のための人生が生きられる	56	7 (12.5)	6 (10.7)	15 (26.8)	16 (28.6)	12 (21.4)
2.3 老いた時に看てくれる家族がいなかったら不安である	57	4 (7.0)	8 (14.0)	11 (19.3)	20 (35.1)	14 (24.6)
2.4 責任がなく悠々自適である	56	19 (33.9)	17 (30.4)	15 (26.8)	4 (7.1)	1 (1.8)
2.5 以前できていたことができなくなるという不安がある	56	3 (5.4)	7 (12.5)	3 (5.4)	25 (44.6)	18 (32.1)
2.6 老いて自分がどうなるのかわからない	56	4 (7.1)	5 (8.9)	4 (7.1)	21 (37.5)	22 (39.3)
2.7 老いを受け入れられないだろう	54	11 (20.4)	14 (25.9)	13 (24.1)	11 (20.4)	5 (9.3)
2.8 自由に旅行ができる	56	7 (12.5)	11 (19.6)	25 (44.6)	8 (14.3)	5 (8.9)
2.9 老いることへの漠然たる怖さがある	57	9 (15.8)	7 (12.3)	12 (21.1)	15 (26.3)	14 (24.6)
2.10 自分自身としての老いについて実感がない	57	6 (10.5)	11 (19.3)	17 (29.8)	13 (22.8)	10 (17.5)
2.11 年をとると痴呆になるのではないかと怖い	57	9 (15.8)	7 (12.3)	14 (24.6)	14 (24.6)	13 (22.8)

表3－2 ケアの実践状況

（%）は有効パーセント

Q3. あなたの施設のスタッフが日頃行っている高齢者の介護について、最も近いと思われる番号に○をつけてください。

	N	全くしていない 度数（%）	あまりしていない 度数（%）	時々はそうしている 度数（%）	しばしばそうしている 度数（%）	いつもそうしている 度数（%）
3.1 自分で食べたいという高齢者に自助具で工夫している	56	4 (7.1)	6 (10.7)	26 (46.4)	16 (28.6)	4 (7.1)
3.2 高齢者の食べたいペースに合わせている	56	0 (0.0)	5 (8.9)	13 (23.2)	20 (35.7)	18 (32.1)
3.3 早く終わることを目標に食事介助をしている	56	12 (21.4)	22 (39.3)	14 (25.0)	8 (14.3)	0 (0.0)
3.4 本人とコミュニケーションをとり、食べたい物から順に口に運ぶ	56	0 (0.0)	16 (28.6)	18 (32.1)	16 (28.6)	6 (10.7)
3.5 その人の理解力に応じた説明をしている	56	0 (0.0)	6 (10.7)	7 (12.5)	21 (37.5)	22 (39.3)
3.6 嚥下を確認し、高齢者のリズムに合わせて介助している	56	0 (0.0)	1 (1.8)	5 (8.9)	23 (41.1)	27 (48.2)
3.7 トイレまでの移動や自力排泄を望んでいる場合は、トイレに誘導する	56	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	14 (25.0)	42 (75.0)
3.8 自力排泄を望んでも、汚すので介助する	56	8 (14.3)	14 (25.0)	21 (37.5)	8 (14.3)	5 (8.9)
3.9 カーテンをせずに排泄介助をしている	56	28 (50.0)	15 (26.8)	5 (8.9)	4 (7.1)	4 (7.1)
3.10 安全に自力で排泄できるような工夫をしている	56	1 (1.8)	3 (5.4)	15 (26.8)	19 (33.9)	18 (32.1)
3.11 自力で安全に移動できる方法を教えている	55	0 (0.0)	3 (5.5)	15 (27.3)	23 (41.8)	14 (25.5)
3.12 決まった時間にだけおむつ交換をしている	56	15 (26.8)	14 (25.0)	12 (21.4)	12 (21.4)	3 (5.4)
3.13 排泄に失敗してもあたたかくケアする	56	1 (1.8)	0 (0.0)	2 (3.6)	12 (21.4)	41 (73.2)
3.14 排泄に失敗するといやな顔をする	56	35 (62.5)	16 (28.6)	3 (5.4)	2 (3.6)	0 (0.0)
3.15 本人が何をどうしたいのかをよく聞いている	56	0 (0.0)	1 (1.8)	11 (19.6)	23 (41.1)	21 (37.5)
3.16 ケアを行ってもいいか返事を聞いてから行っている	56	1 (1.8)	3 (5.4)	11 (19.6)	19 (33.9)	22 (39.3)
3.17 高齢者の言動から意思の把握に努めている	56	0 (0.0)	1 (1.8)	9 (16.1)	19 (33.9)	27 (48.2)
3.18 声をかけないでケアをしている	56	32 (57.1)	12 (21.4)	4 (7.1)	5 (8.9)	3 (5.4)
3.19 声をかけると同時にケアを行っている	56	5 (8.9)	5 (8.9)	25 (44.6)	11 (19.6)	10 (17.9)
3.20 目の高さが同じになるようにして話しかける	56	1 (1.8)	4 (7.1)	6 (10.7)	20 (35.7)	25 (44.6)
3.21 丁寧な言葉遣いをしている	55	0 (0.0)	3 (5.5)	8 (14.5)	25 (45.5)	19 (34.5)
3.22 思い出話は長いのであまり聞かないようにしている	55	13 (23.6)	25 (45.5)	10 (18.2)	6 (10.9)	1 (1.8)
3.23 後ろから話しかけてケアしている	56	17 (30.4)	25 (44.6)	10 (17.9)	3 (5.4)	1 (1.8)
3.24 同じ話を何度もするので、適当に相づちを打っている	55	7 (12.7)	13 (23.6)	28 (50.9)	6 (10.9)	1 (1.8)
3.25 できたことをほめている	56	0 (0.0)	1 (1.8)	7 (12.5)	17 (30.4)	31 (55.4)
3.26 単調なリハビリをしている時にも声かけをしている	55	1 (1.8)	3 (5.5)	8 (14.5)	18 (32.7)	25 (45.5)
3.27 話したことや聞いたことを忘れても責めない	56	1 (1.8)	1 (1.8)	5 (8.9)	10 (17.9)	39 (69.6)
3.28 その人の生活習慣をできるだけ取り入れている	56	0 (0.0)	6 (10.7)	15 (26.8)	19 (33.9)	16 (28.6)
3.29 カルテや家族の話から、高齢者の背景を把握している	57	0 (0.0)	8 (14.0)	21 (36.8)	16 (28.1)	12 (21.1)
3.30 静かな雰囲気で食事をしたい高齢者に環境を考慮している	57	2 (3.5)	9 (15.8)	21 (36.8)	18 (31.6)	7 (12.3)
3.31 家族の写真や大事にしているものがあれば身近に置けるようにしている	57	0 (0.0)	1 (1.8)	6 (10.5)	23 (40.4)	27 (47.4)
3.32 きらいなレクリエーションでも参加してもらっている	57	12 (21.1)	16 (28.1)	20 (35.1)	7 (12.3)	2 (3.5)
3.33 自分でできることでも介護者が行っている	57	11 (19.3)	18 (31.6)	21 (36.8)	5 (8.8)	2 (3.5)
3.34 作業効率を第一に入浴介助を行っている	55	6 (10.9)	9 (16.4)	30 (54.5)	8 (14.5)	2 (3.6)
3.35 入浴は満足のいく十分な時間をとっている	56	4 (7.1)	13 (23.2)	27 (48.2)	11 (19.6)	1 (1.8)
3.36 その高齢者の障害のレベルに合わせたケアを行っている	57	0 (0.0)	4 (7.0)	12 (21.1)	26 (45.6)	15 (26.3)

表3－3 良質なケアの意識　　(%)は有効パーセント

Q4. あなたが良いと考える高齢者の援助について最も近いと思われる番号に○をつけてください。

	N	全くそう思わない 度数（%）	そう思わない 度数（%）	どちらとも言えない 度数（%）	そう思う 度数（%）	全くそう思う 度数（%）
4.1 自分で食べたいという高齢者に自助具で工夫する	57	1 (1.8)	1 (1.8)	1 (1.8)	21 (36.8)	33 (57.9)
4.2 高齢者の食べたいペースに合わせる	57	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (5.3)	21 (36.8)	33 (57.9)
4.3 早く終わることを目標に食事介助をする	57	21 (36.8)	25 (43.9)	8 (14.0)	2 (3.5)	1 (1.8)
4.4 本人とコミュニケーションをとり、食べたい物から順に口に運ぶ	57	0 (0.0)	2 (3.5)	11 (19.3)	17 (29.8)	27 (47.4)
4.5 その人の理解力に応じた説明をする	57	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (3.5)	29 (50.9)	26 (45.6)
4.6 嚥下を確認し、高齢者のリズムに合わせて介助する		0 (0.0)	0 (0.0)	2 (3.5)	14 (24.6)	41 (71.9)
4.7 トイレまでの移動や自力排泄を望んでいる場合は、トイレに誘導する	57	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (5.3)	11 (19.3)	43 (75.4)
4.8 自力排泄を望んでも、汚すのですべて介助する	57	21 (36.8)	20 (35.1)	10 (17.5)	5 (8.8)	1 (1.8)
4.9 カーテンをせずに排泄介助をする	57	38 (69.1)	11 (20.0)	3 (5.5)	1 (1.8)	2 (3.6)
4.10 安全に自力で排泄できるような工夫をする	57	1 (1.8)	2 (3.5)	4 (7.0)	21 (36.8)	29 (50.9)
4.11 自力で安全に移動できる方法を教える	57	0 (0.0)	1 (1.8)	3 (5.3)	22 (38.6)	31 (54.4)
4.12 決まった時間にだけおむつ交換をする	57	24 (42.1)	20 (35.1)	11 (19.3)	2 (3.5)	0 (0.0)
4.13 排泄に失敗してもあたたかくケアする	57	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.8)	8 (14.0)	48 (84.2)
4.14 排泄に失敗するといやな顔をする	57	44 (77.2)	9 (15.8)	1 (1.8)	2 (3.5)	1 (1.8)
4.15 本人が何をどうしたいのかをよく聞く	57	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (3.5)	15 (26.3)	40 (70.2)
4.16 ケアを行ってもいいか返事を聞いてから行う	57	0 (0.0)	0 (0.0)	9 (15.8)	17 (29.8)	31 (54.4)
4.17 高齢者の言動から意思の把握に努める	57	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (5.3)	18 (31.6)	36 (63.2)
4.18 声をかけないでケアをする	56	38 (67.9)	11 (19.6)	2 (3.6)	3 (5.4)	2 (3.6)
4.19 声をかけると同時にケアを行う	56	12 (21.4)	17 (30.4)	11 (19.6)	7 (12.5)	9 (16.1)
4.20 目の高さが同じになるようにして話しかける	57	0 (0.0)	0 (0.0)	8 (14.0)	11 (19.3)	38 (66.7)
4.21 丁寧な言葉遣いをする	57	0 (0.0)	2 (3.5)	3 (5.3)	21 (36.8)	31 (54.4)
4.22 思い出話は長いのであまり聞かないようにする	57	25 (43.9)	23 (40.4)	6 (10.5)	2 (3.5)	1 (1.8)
4.23 後ろから話しかけてケアしする	57	29 (50.9)	17 (29.8)	8 (14.0)	3 (5.3)	0 (0.0)
4.24 同じ話を何度もするときは、適当に相づちを打つ	57	15 (26.3)	13 (22.8)	20 (35.1)	6 (10.5)	3 (5.3)
4.25 できたことをほめる	57	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (7.0)	14 (24.6)	39 (68.4)
4.26 単調なリハビリをしている時にも声かけをする	57	0 (0.0)	2 (3.5)	8 (14.0)	14 (24.6)	33 (57.9)
4.27 話したことや聞いたことを忘れても責めない	57	1 (1.8)	0 (0.0)	3 (5.3)	10 (17.5)	43 (75.4)
4.28 その人の生活習慣をできるだけ取り入れる	57	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (7.0)	16 (28.1)	37 (64.9)
4.29 カルテや家族の話から、高齢者の背景を把握する	57	1 (1.8)	0 (0.0)	2 (3.5)	14 (24.6)	40 (70.2)
4.30 静かな雰囲気で食事をしたい高齢者に環境を考慮する	57	0 (0.0)	0 (0.0)	9 (15.8)	18 (31.6)	30 (52.6)
4.31 家族の写真や大事にしているものがあれば身近に置けるようにする	57	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (3.5)	12 (21.1)	43 (75.4)
4.32 きらいなレクリエーションでも参加してもらう	57	15 (26.3)	8 (14.0)	27 (47.4)	4 (7.0)	3 (5.3)
4.33 自分でできることでもすべて介護者が行う	57	29 (50.9)	21 (36.8)	4 (7.0)	2 (3.5)	1 (1.8)
4.34 作業効率を第一に入浴介助をする	57	23 (40.4)	13 (22.8)	13 (22.8)	5 (8.8)	3 (5.3)
4.35 入浴は満足のいく十分な時間をとる	57	2 (3.5)	0 (0.0)	16 (28.1)	17 (29.8)	22 (38.6)
4.36 その高齢者の障害のレベルに合わせたケアを行う	57	1 (1.8)	0 (0.0)	3 (5.3)	16 (28.1)	37 (64.9)

表3－4 高齢者の自立に対する意識と高齢者の状態　　（%）は有効パーセント

Q5. 高齢者の自立についてあなたの考えに最も近い番号に○をつけてください。

	N	全くそう思わない 度数（%）	そう思わない 度数（%）	どちらとも言えない 度数（%）	そう思う 度数（%）	全くそう思う 度数（%）
5.1 一人でも暮らせるということ	57	2 (3.5)	10 (17.5)	19 (33.3)	18 (31.6)	8 (14.0)
5.2 家族の手をかけさせないこと	57	0 (0.0)	16 (28.1)	23 (40.4)	14 (24.6)	4 (7.0)
5.3 自分の身の回りのことができる	57	0 (0.0)	3 (5.3)	7 (12.3)	33 (57.9)	14 (24.6)
5.4 車椅子でも日常生活が自分でできる	57	1 (1.8)	5 (8.8)	8 (14.0)	31 (54.4)	12 (21.1)
5.5 自分の意思で何か行っている	57	0 (0.0)	2 (3.5)	7 (12.3)	30 (52.6)	18 (31.6)
5.6 高齢者自身が自立していると思っていること	57	0 (0.0)	10 (17.5)	21 (36.8)	15 (26.3)	11 (19.3)
5.7 誰にも遠慮しないで自己主張できること	57	2 (3.5)	10 (17.5)	24 (42.1)	8 (14.0)	13 (22.8)
5.8 自分で物事を決めていること	56	0 (0.0)	9 (16.1)	16 (28.6)	20 (35.7)	11 (19.6)
5.9 自分で生きたいように生きていること	57	2 (3.5)	7 (12.3)	26 (45.6)	13 (22.8)	9 (15.8)
5.10 できるところは自分で行い、できないところは助けを求められること	57	0 (0.0)	1 (1.8)	4 (7.0)	29 (50.9)	23 (40.4)
5.11 自分の意見があり、家族の意見も受け入れられること	57	0 (0.0)	1 (1.8)	3 (5.3)	30 (52.6)	23 (40.4)
5.12 他の人に手伝ってもらうことを選択していること	57	4 (7.0)	11 (19.3)	26 (45.6)	7 (12.3)	9 (15.8)
5.13 自分ですべて行っていること	57	1 (1.8)	12 (21.1)	22 (38.6)	17 (29.8)	5 (8.8)
5.14 家族が介護できるADLレベルにあること	57	4 (7.0)	14 (24.6)	18 (31.6)	16 (28.1)	5 (8.8)
5.15 身の回りのことは介助者がいればできるということ	57	3 (5.3)	9 (15.8)	21 (36.8)	18 (31.6)	6 (10.5)
5.16 サービスの利用を選択していること	56	0 (0.0)	9 (16.1)	17 (30.4)	21 (37.5)	9 (16.1)
5.17 経済的にゆとりをもって生活していること	57	1 (1.8)	18 (31.6)	18 (31.6)	15 (26.3)	5 (8.8)
5.18 周りから頼りにされていること	57	5 (8.8)	12 (21.1)	15 (26.3)	17 (29.8)	8 (14.0)

Q6. 現在の（あなたの施設の）高齢者の状態について、最も近いと思われる番号に○をつけてください。

	N	ない 度数（%）	たまに 度数（%）	ときどき 度数（%）	しばしば 度数（%）	いつも 度数（%）
6.1 高齢者からスタッフに挨拶や声をかけられる	56	0 (0.0)	3 (5.4)	12 (21.4)	17 (30.4)	24 (42.9)
6.2 高齢者から昔話などを話してくれる	57	1 (1.8)	5 (8.8)	20 (35.1)	23 (40.4)	8 (14.0)
6.3 高齢者から相談される	57	1 (1.8)	8 (14.0)	17 (29.8)	22 (38.6)	9 (15.8)
6.4 こちらから挨拶など声をかけても返事がない	57	21 (36.8)	17 (29.8)	18 (31.6)	1 (1.8)	0 (0.0)
6.5 怒り出すことがある	57	11 (19.3)	21 (36.8)	14 (24.6)	10 (17.5)	1 (1.8)
6.6 引きこもってスタッフと接触を断っている	56	18 (32.1)	21 (37.5)	15 (26.8)	2 (3.6)	0 (0.0)
6.7 こうしたいという意思表示がある	57	0 (0.0)	3 (5.3)	15 (26.3)	27 (47.4)	12 (21.1)
6.8 自分で選択しようとする	56	0 (0.0)	8 (14.3)	22 (39.3)	20 (35.7)	6 (10.7)
6.9 こちらから聞いても意思がよくわからない	57	2 (3.5)	17 (29.8)	27 (47.4)	8 (14.0)	3 (5.3)
6.10 何をするにもスタッフの意見にまかせている	57	2 (3.5)	23 (40.4)	24 (42.1)	8 (14.0)	0 (0.0)
6.11 ADLの向上がみられる	56	2 (3.6)	7 (12.5)	20 (35.7)	25 (44.6)	2 (3.6)
6.12 関心のあるプログラムに参加して楽しみを見つけている	56	0 (0.0)	7 (12.5)	14 (25.0)	25 (44.6)	10 (17.9)
6.13 自分で行おうとする行動が出てきた	57	0 (0.0)	10 (17.5)	18 (31.6)	23 (40.4)	6 (10.5)
6.14 表情が明るくなった	57	1 (1.8)	3 (5.3)	10 (17.5)	32 (56.1)	11 (19.3)
6.15 痴呆症状の出現率が高くなった	57	6 (10.5)	22 (38.6)	14 (24.6)	11 (19.3)	4 (7.0)
6.16 できていたことができなくなった	57	3 (5.3)	24 (42.1)	19 (33.3)	9 (15.8)	2 (3.5)
6.17 促されないと行動へ移さなくなった	56	3 (5.4)	18 (32.1)	24 (42.9)	9 (16.1)	2 (3.6)
6.18 ベッドに横になっている時間が長くなっている	55	5 (9.1)	24 (43.6)	17 (30.9)	7 (12.7)	2 (3.6)
6.19 家族とコンタクトをとっている	56	1 (1.8)	8 (14.3)	17 (30.4)	21 (37.5)	9 (16.1)
6.20 高齢者、家族、スタッフが同じ目標に進んでいる	56	1 (1.8)	8 (14.3)	29 (51.8)	10 (17.9)	8 (14.3)
6.21 家族から感謝される	56	0 (0.0)	1 (1.8)	17 (30.4)	29 (51.8)	9 (16.1)
6.22 本人と家族の思いが一致していない	56	2 (3.6)	15 (26.8)	30 (53.6)	8 (14.3)	1 (1.8)
6.23 家族とスタッフの判断が一致していない	55	8 (14.5)	19 (34.5)	19 (34.5)	8 (14.5)	1 (1.8)
6.24 家族が退所後の介護について具体的にわかっていない	55	5 (9.1)	17 (30.9)	21 (38.2)	11 (20.0)	1 (1.8)

表4　実践状況と良質なケアの意識との相関

		N	Kendallの相関係数
3.1	自分で食べたいという高齢者に自助具で工夫している	56	−0.113
4.1	自分で食べたいという高齢者に自助具で工夫する		
3.2	高齢者の食べたいペースに合わせている	56	−0.073
4.2	高齢者の食べたいペースに合わせる		
3.3	早く終わることを目標に食事介助をしている	56	0.384 ***
4.3	早く終わることを目標に食事介助をする		
3.4	本人とコミュニケーションをとり、食べたい物から順に口に運ぶ	56	−0.018
4.4	本人とコミュニケーションをとり、食べたい物から順に口に運ぶ		
3.5	その人の理解力に応じた説明をしている	56	0.078
4.5	その人の理解力に応じた説明をする		
3.6	嚥下を確認し、高齢者のリズムに合わせて介助している	56	0.414 ***
4.6	嚥下を確認し、高齢者のリズムに合わせて介助する		
3.7	トイレまでの移動や自力排泄を望んでいる場合は、トイレに誘導する	56	0.511 ***
4.7	トイレまでの移動や自力排泄を望んでいる場合は、トイレに誘導する		
3.8	自力排泄を望んでも、汚すので介助する	56	0.312 **
4.8	自力排泄を望んでも、汚すのですべて介助する		
3.9	カーテンをせずに排泄介助をしている	54	0.371 **
4.9	カーテンをせずに排泄介助をする		
3.10	安全に自力で排泄できるような工夫をしている	56	0.280 *
4.10	安全に自力で排泄できるような工夫をする		
3.11	自力で安全に移動できる方法を教えている	55	0.191
4.11	自力で安全に移動できる方法を教える		
3.12	決まった時間にだけおむつ交換をしている	56	0.563 ***
4.12	決まった時間にだけおむつ交換をする		
3.13	排泄に失敗してもあたたかくケアする	56	0.315 *
4.13	排泄に失敗してもあたたかくケアする		
3.14	排泄に失敗するといやな顔をする	56	0.246
4.14	排泄に失敗するといやな顔をする		
3.15	本人が何をどうしたいのかをよく聞いている	56	0.239
4.15	本人が何をどうしたいのかをよく聞く		
3.16	ケアを行ってもいいか返事を聞いてから行っている	56	0.068
4.16	ケアを行ってもいいか返事を聞いてから行う		
3.17	高齢者の言動から意思の把握に努めている	56	0.234
4.17	高齢者の言動から意思の把握に努める		
3.18	声をかけないでケアをしている	55	0.436 ***
4.18	声をかけないでケアをする		
3.19	声をかけると同時にケアを行っている	55	0.508 ***
4.19	声をかけると同時にケアを行う		
3.20	目の高さが同じになるようにして話しかける	56	0.484 ***
4.20	目の高さが同じになるようにして話しかける		
3.21	丁寧な言葉遣いをしている	55	0.332 **
4.21	丁寧な言葉遣いをする		
3.22	思い出話は長いのであまり聞かないようにしている	55	0.484 ***
4.22	思い出話は長いのであまり聞かないようにする		
3.23	後ろから話しかけてケアしている	56	0.210
4.23	後ろから話しかけてケアしする		
3.24	同じ話を何度もするので、適当に相づちを打っている	55	0.465 ***
4.24	同じ話を何度もするときは、適当に相づちを打つ		
3.25	できたことをほめている	56	0.501 ***
4.25	できたことをほめる		
3.26	単調なリハビリをしている時にも声かけをしている	55	0.325 **
4.26	単調なリハビリをしている時にも声かけをする		
3.27	話したことや聞いたことを忘れても責めない	56	0.261 *
4.27	話したことや聞いたことを忘れても責めない		
3.28	その人の生活習慣をできるだけ取り入れている	56	0.157
4.28	その人の生活習慣をできるだけ取り入れる		
3.29	カルテや家族の話から、高齢者の背景を把握している	57	0.076
4.29	カルテや家族の話から、高齢者の背景を把握する		
3.30	静かな雰囲気で食事をしたい高齢者に環境を考慮している	57	0.156
4.30	静かな雰囲気で食事をしたい高齢者に環境を考慮する		
3.31	家族の写真や大事にしているものがあれば身近に置けるようにしている	57	0.090
4.31	家族の写真や大事にしているものがあれば身近に置けるようにする		
3.32	きらいなレクリエーションでも参加してもらっている	57	0.605 ***
4.32	きらいなレクリエーションでも参加してもらう		
3.33	自分でできることでも介護者が行っている	57	0.316 **
4.33	自分でできることでもすべて介護者が行う		
3.34	作業効率を第一に入浴介助を行っている	55	0.253 *
4.34	作業効率を第一に入浴介助をする		
3.35	入浴は満足のいく十分な時間をとっている	56	0.017
4.35	入浴は満足のいく十分な時間をとる		
3.36	その高齢者の障害のレベルに合わせたケアを行っている	57	−0.066
4.36	その高齢者の障害のレベルに合わせたケアを行う		

* $p<0.05$、** $p<0.01$、*** $p<0.001$

表5－1　事前調査(pretest)と事後調査(posttest)の回答結果の平均値と標準偏差　　逆転項目はR
――高齢者、老化に対する意識――

Q1. 高齢者についてあなたの考えや思いに最も近い番号に○をつけてください。

		事前調査			事後調査		
		N	M	±SD	N	M	±SD
1.1 機能が衰えていく	R	21	1.43	±0.51	21	1.57	±0.60
1.2 苦労の中で培われた自分の価値観を持っている		21	4.43	±0.68	21	4.52	±0.60
1.3 自分ではやっているつもりでも間違うことがある	R	21	1.95	±0.86	21	2.10	±0.70
1.4 孤独になっていく	R	21	2.19	±1.03	21	2.24	±0.89
1.5 家族や社会とさまざまに関わりあって生活している		21	4.19	±1.12	21	3.86	±1.15
1.6 自分の理想とする老い方の人がいる		21	4.05	±1.02	21	4.05	±1.02
1.7 豊かな経験に基づく知恵を持っている		20	4.60	±0.68	21	4.33	±1.06
1.8 今の状況を受け入れ楽しく暮らしている		21	3.19	±0.60	20	3.15	±0.88
1.9 老いると死に近づく	R	21	2.19	±1.25	21	2.24	±1.26
1.10 勉強させてもらっている存在である		20	4.60	±0.68	21	4.62	±0.74
1.11 障害があっても、生き生きして元気である		19	3.84	±0.96	21	3.76	±1.14
1.12 誰でもいつかは老いて行く自然の流れは避けられない	R	20	1.10	±0.31	21	1.24	±0.44

Q2. 自分が老いることについてあなたの考えや思いに最も近い番号に○をつけてください。

		事前調査			事後調査		
		N	M	±SD	N	M	±SD
2.1 最終的には家族もなく一人の生活かと思うと切ない	R	21	2.67	±1.53	21	3.00	±1.38
2.2 自分のための人生が生きられる		20	3.85	±0.99	21	3.43	±1.08
2.3 老いた時に看てくれる家族がいなかったら不安である	R	21	2.52	±1.25	21	2.38	±1.32
2.4 責任がなく悠々自適である		20	2.15	±1.23	20	2.40	±1.14
2.5 以前できていたことができなくなるという不安がある	R	20	2.10	±1.25	21	2.33	±0.97
2.6 老いて自分がどうなるのかわからない	R	20	1.90	±1.02	21	1.95	±1.07
2.7 老いを受け入れられないだろう	R	20	3.15	±1.18	21	3.43	±1.08
2.8 自由に旅行ができる		20	3.15	±0.93	19	3.26	±0.93
2.9 老いることへの漠然たる怖さがある	R	21	2.86	±1.59	20	2.70	±1.38
2.10 自分自身としての老いについて実感がない		21	3.38	±1.36	21	2.95	±1.12
2.11 年をとると痴呆になるのではないかと怖い	R	21	3.05	±1.47	21	3.10	±1.45

表5－2　事前調査(pretest)と事後調査(posttest)の回答結果の平均値と標準偏差　　逆転項目はR
――ケアの実践状況――

Q3. あなたの施設のスタッフが日頃行っている高齢者の介護について、最も近いと思われる番号に○をつけてください。

		事前調査			事後調査		
		N	M	±SD	N	M	±SD
3.1 自分で食べたいという高齢者に自助具で工夫している		21	3.29	±1.19	21	3.14	±0.85
3.2 高齢者の食べたいペースに合わせている		21	4.24	±0.77	20	3.80	±0.89
3.3 早く終わることを目標に食事介助をしている	R	21	3.71	±0.85	20	3.95	±0.94
3.4 本人とコミュニケーションをとり、食べたい物から順に口に運ぶ		21	3.38	±1.07	21	3.38	±0.92
3.5 その人の理解力に応じた説明をしている		21	4.48	±0.81	21	3.86	±0.79
3.6 嚥下を確認し、高齢者のリズムに合わせて介助している		21	4.57	±0.60	21	4.48	±0.68
3.7 トイレまでの移動や自力排泄を望んでいる場合は、トイレに誘導する		21	4.86	±0.36	20	4.90	±0.31
3.8 自力排泄を望んでも、汚すので介助する	R	21	3.19	±1.17	21	3.05	±1.07
3.9 カーテンをせずに排泄介助をしている	R	21	4.29	±1.23	20	4.20	±0.83
3.10 安全に自力で排泄できるような工夫をしている		21	4.10	±1.04	20	4.10	±0.91
3.11 自力で安全に移動できる方法を教えている		20	4.15	±0.81	21	4.43	±0.75
3.12 決まった時間にだけおむつ交換をしている	R	21	3.67	±1.35	21	3.57	±1.40
3.13 排泄に失敗してもあたたかくケアする		21	4.90	±0.30	21	4.67	±0.58
3.14 排泄に失敗するといやな顔をする	R	21	4.57	±0.75	21	4.52	±0.51
3.15 本人が何をどうしたいのかをよく聞いている		21	4.38	±0.67	21	4.33	±0.66
3.16 ケアを行ってもいいか返事を聞いてから行っている		21	4.29	±0.85	21	3.90	±0.94
3.17 高齢者の言動から意思の把握に努めている		21	4.48	±0.68	21	4.33	±0.80
3.18 声をかけないでケアをしている	R	21	4.19	±1.17	20	4.35	±0.99
3.19 声をかけると同時にケアを行っている	R	21	2.57	±1.25	20	3.15	±1.04
3.20 目の高さが同じになるようにして話しかける		21	4.19	±0.87	21	4.00	±0.95
3.21 丁寧な言葉遣いをしている		20	4.25	±0.79	18	4.06	±0.80
3.22 思い出話は長いのであまり聞かないようにしている	R	20	3.85	±1.04	21	3.76	±1.04
3.23 後ろから話しかけてケアしている	R	21	4.00	±1.00	21	3.81	±1.17
3.24 同じ話を何度もするので、適当に相づちを打っている	R	21	3.48	±0.98	21	3.62	±0.92
3.25 できたことをほめている		21	4.52	±0.60	21	4.57	±0.51
3.26 単調なリハビリをしている時にも声かけをしている		21	4.57	±0.68	21	4.29	±0.72
3.27 話したことや聞いたことを忘れても責めない		21	4.62	±0.80	21	4.14	±1.15
3.28 その人の生活習慣をできるだけ取り入れている		21	3.95	±1.12	21	4.10	±0.89
3.29 カルテや家族の話から、高齢者の背景を把握している		21	3.86	±1.01	21	3.81	±0.87
3.30 静かな雰囲気で食事をしたい高齢者に環境を考慮している		21	3.62	±0.97	21	3.57	±0.93
3.31 家族の写真や大事にしているものがあれば身近に置けるようにしている		21	4.62	±0.67	21	4.57	±0.75
3.32 きらいなレクリエーションでも参加してもらっている	R	21	3.62	±1.07	21	3.52	±0.81
3.33 自分でできることでも介護者が行っている	R	21	3.48	±1.08	21	3.71	±0.78
3.34 作業効率を第一に入浴介助を行っている	R	21	3.33	±1.02	21	3.43	±0.98
3.35 入浴は満足のいく十分な時間をとっている		21	2.90	±0.83	21	2.57	±1.03
3.36 その高齢者の障害のレベルに合わせたケアを行っている		21	4.10	±0.83	21	3.81	±0.98

表5－3　事前調査(pretest)と事後調査(posttest)の回答結果の平均値と標準偏差　　逆転項目はR
――良質なケアの意識――

Q4. あなたが良いと考える高齢者の援助について最も近いと思われる番号に○をつけてください。

		事前調査			事後調査		
		N	M	±SD	N	M	±SD
4.1 自分で食べたいという高齢者に自助具で工夫する		21	4.62	±0.50	21	4.57	±0.51
4.2 高齢者の食べたいペースに合わせる		21	4.57	±0.60	21	4.52	±0.60
4.3 早く終わることを目標に食事介助をする	R	21	3.90	±1.00	21	4.48	±0.75
4.4 本人とコミュニケーションをとり、食べたい物から順に口に運ぶ		21	4.33	±0.66	21	4.29	±0.90
4.5 その人の理解力に応じた説明をする		21	4.38	±0.50	21	4.52	±0.51
4.6 嚥下を確認し、高齢者のリズムに合わせて介助する		21	4.71	±0.56	21	4.67	±0.58
4.7 トイレまでの移動や自力排泄を望んでいる場合は、トイレに誘導する		21	4.67	±0.48	21	4.86	±0.36
4.8 自力排泄を望んでも、汚すのですべて介助する	R	21	4.00	±1.10	20	4.10	±1.12
4.9 カーテンをせずに排泄介助をする	R	20	4.60	±0.94	20	4.40	±1.23
4.10 安全に自力で排泄できるような工夫をする		21	4.38	±0.97	20	4.55	±0.60
4.11 自力で安全に移動できる方法を教える		21	4.57	±0.51	21	4.52	±0.51
4.12 決まった時間にだけおむつ交換をする	R	21	4.29	±0.78	21	4.00	±1.05
4.13 排泄に失敗してもあたたかくケアする		21	4.86	±0.36	21	4.67	±0.58
4.14 排泄に失敗するといやな顔をする	R	21	4.52	±1.08	21	4.76	±0.54
4.15 本人が何をどうしたいのかをよく聞く		21	4.71	±0.46	21	4.38	±0.74
4.16 ケアを行ってもいいか返事を聞いてから行う		21	4.33	±0.80	21	4.43	±0.68
4.17 高齢者の言動から意思の把握に努める		21	4.57	±0.60	21	4.57	±0.60
4.18 声をかけないでケアをする	R	20	4.20	±1.24	21	4.62	±0.67
4.19 声をかけると同時にケアを行う	R	20	3.10	±1.33	21	3.33	±1.02
4.20 目の高さが同じになるようにして話しかける		21	4.52	±0.75	21	4.52	±0.75
4.21 丁寧な言葉遣いをする		21	4.38	±0.80	21	4.24	±0.89
4.22 思い出話は長いのであまり聞かないようにする	R	21	4.19	±0.87	21	3.90	±0.94
4.23 後ろから話しかけてケアしする	R	21	4.14	±0.96	21	3.90	±1.09
4.24 同じ話を何度もするときは、適当に相づちを打つ	R	21	3.67	±1.15	21	3.48	±1.25
4.25 できたことをほめる		21	4.67	±0.48	21	4.76	±0.44
4.26 単調なリハビリをしている時にも声かけをする		21	4.57	±0.60	21	4.52	±0.60
4.27 話したことや聞いたことを忘れても責めない		21	4.62	±0.92	21	4.67	±0.48
4.28 その人の生活習慣をできるだけ取り入れる		21	4.48	±0.68	21	4.33	±0.86
4.29 カルテや家族の話から、高齢者の背景を把握する		21	4.52	±0.60	21	4.62	±0.59
4.30 静かな雰囲気で食事をしたい高齢者に環境を考慮する		21	4.14	±0.73	21	4.43	±0.75
4.31 家族の写真や大事にしているものがあれば身近に置けるようにする		21	4.76	±0.44	21	4.67	±0.48
4.32 きらいなレクリエーションでも参加してもらう	R	21	3.62	±0.97	21	3.62	±0.92
4.33 自分でできることでもすべて介護者が行う	R	21	4.19	±0.98	21	4.29	±0.64
4.34 作業効率を第一に入浴介助をする	R	21	4.05	±0.97	21	4.14	±1.01
4.35 入浴は満足のいく十分な時間をとる		21	3.71	±1.15	21	4.10	±0.83
4.36 その高齢者の障害のレベルに合わせたケアを行う		21	4.29	±1.01	21	4.57	±0.51

表5－4　事前調査(pretest)と事後調査(posttest)の回答結果の平均値と標準偏差　　逆転項目はR
――高齢者の自立に対する意識と高齢者の状態――

Q5. 高齢者の自立についてあなたの考えに最も近い番号に○をつけてください。

	事前調査			事後調査		
	N	M	±SD	N	M	±SD
5.1 一人でも暮らせるということ	21	2.90	±0.94	20	3.45	±0.83
5.2 家族の手をかけさせないこと	21	3.10	±0.83	20	3.35	±0.93
5.3 自分の身の回りのことができる	21	3.90	±0.77	21	4.00	±0.71
5.4 車椅子でも日常生活が自分でできる	21	3.52	±1.03	21	4.00	±0.63
5.5 自分の意思で何か行っている	21	3.95	±0.80	21	4.38	±0.74
5.6 高齢者自身が自立していると思っていること	21	3.33	±0.91	21	3.48	±0.87
5.7 誰にも遠慮しないで自己主張できること	21	3.48	±1.12	21	3.48	±0.81
5.8 自分で物事を決めていること	21	3.48	±0.93	20	4.10	±0.72
5.9 自分で生きたいように生きていること	21	3.19	±1.08	21	3.52	±0.98
5.10 できるところは自分で行い、できないところは助けを求められること	21	4.29	±0.72	20	4.30	±0.86
5.11 自分の意見があり、家族の意見も受け入れられること	21	4.29	±0.72	21	3.81	±1.08
5.12 他の人に手伝ってもらうことを選択していること	21	3.14	±1.01	21	3.19	±1.08
5.13 自分ですべて行っていること	21	3.14	±1.01	21	3.10	±1.14
5.14 家族が介護できるADLレベルにあること	21	2.81	±1.03	21	2.95	±0.92
5.15 身の回りのことは介助者がいればできるということ	21	3.05	±1.02	21	3.52	±0.68
5.16 サービスの利用を選択していること	20	3.30	±0.92	21	3.76	±0.89
5.17 経済的にゆとりをもって生活していること	21	2.95	±0.97	21	3.10	±1.09
5.18 周りから頼りにされていること	21	2.90	±1.37	21	3.43	±1.12

Q6. 現在の(あなたの施設の)高齢者の状態について、最も近いと思われる番号に○をつけてください。

		事前調査			事後調査		
		N	M	±SD	N	M	±SD
6.1 高齢者からスタッフに挨拶や声をかけられる		20	4.10	±1.02	21	3.90	±0.94
6.2 高齢者から昔話などを話してくれる		21	3.38	±0.92	21	3.81	±0.81
6.3 高齢者から相談される		21	3.62	±0.80	21	3.67	±0.91
6.4 こちらから挨拶など声をかけても返事がない	R	21	4.14	±0.79	21	3.90	±1.14
6.5 怒り出すことがある	R	21	4.00	±0.77	20	3.80	±0.83
6.6 引きこもってスタッフと接触を断っている	R	21	4.24	±0.70	21	4.10	±0.89
6.7 こうしたいという意思表示がある		21	4.00	±0.71	21	3.71	±0.64
6.8 自分で選択しようとする		21	3.38	±0.92	21	3.29	±0.78
6.9 こちらから聞いても意思がよくわからない	R	21	3.29	±0.85	21	3.43	±0.81
6.10 何をするにもスタッフの意見にまかせている	R	21	3.52	±0.75	21	3.52	±1.08
6.11 ADLの向上がみられる		21	3.52	±0.60	21	3.33	±0.80
6.12 関心のあるプログラムに参加して楽しみを見つけている		21	3.90	±0.89	21	3.62	±0.74
6.13 自分で行おうとする行動が出てきた		21	3.43	±0.87	21	3.33	±0.91
6.14 表情が明るくなった		21	3.90	±0.94	21	3.76	±0.89
6.15 痴呆症状の出現率が高くなった	R	21	3.71	±0.96	21	3.67	±0.86
6.16 できていたことができなくなった	R	21	3.67	±0.80	21	3.62	±0.92
6.17 促されないと行動へ移さなくなった	R	21	3.43	±0.87	21	3.38	±0.80
6.18 ベッドに横になっている時間が長くなっている	R	20	3.55	±1.05	21	3.38	±1.02
6.19 家族とコンタクトをとっている		21	3.57	±0.93	21	3.57	±1.03
6.20 高齢者、家族、スタッフが同じ目標に進んでいる		21	3.76	±0.89	20	3.45	±1.15
6.21 家族から感謝される		21	4.10	±0.62	20	4.00	±0.92
6.22 本人と家族の思いが一致していない	R	21	3.43	±0.75	20	3.05	±0.94
6.23 家族とスタッフの判断が一致していない	R	20	3.85	±1.09	20	3.80	±1.06
6.24 家族が退所後の介護について具体的にわかっていない	R	20	3.55	±1.10	20	3.25	±1.25

厚生科学研究費補助金（医療技術評価総合研究事業）

分担研究報告書

在宅と施設における痴呆性要介護者のケア実態と社会的コストからみた老人保健施設の看護のあり方に関する検討

分担研究者　宮崎和加子　健和会訪問看護ステーション統括本部

研究要旨：平成 12 年 4 月より介護保険が開始された。要介護者が受けられるサービスは、在宅では支給限度額の範囲内でのサービスの組み合わせであり、ショートステイで入所した場合はケアプランに沿ったケアを受ける。ところが、受けているケアが在宅と施設ではかなり違っており、またその社会的なコストも違っている。この研究では、同一の要介護者が在宅と施設で受けているケアの実態を明らかにし、老人保健施設の看護のあり方の視点と経済的な評価(介護報酬）の妥当性を試みた。

具体的には、要介護者 6 名（移動可能な痴呆性要介護者者 3 名、ほぼ寝たきりの痴呆性要介護者 3 名）を対象に、同一時間帯における在宅とショートステイ入所中の老人保健施設でのケアの実際と本人の言動・表情を観察した。その結果、徘徊痴呆ではないが「目を離せない痴呆群」のケアや、“見守りケア”の重要性など老人保健施設での看護のあり方を考える視点を得られた。

Ⅰ　研究目的

本研究の目的は、同一の痴呆性要介護者が、在宅で家族やヘルパー他によって受けているケアや生活の内容と、ショートステイで老人保健施設に入所して受けたケアや生活の実態を明らかにし、今後の老人保健施設の看護のあり方に関係する視点を示すことである。また、そのケアに対する社会的・経済的な経費を明らかにしてその妥当性・問題点を抽出し改善の方向性を探ることである。

Ⅱ　研究方法

1．対象

老人保健施設にショートステイ入所している痴呆性要介護者で、少しの介助があれば移動可能だが、立位や歩行が不安定で転倒などのおそれがある群（以下、**「目を離せない痴呆群」**とする）3名と、ベッド上での生活が主で移動に重介護を要する群(以下、**「寝たきり痴呆群」**とする）3名とした。いずれも施設と在宅での観察調査について了解が得られた者である。

2．研究方法

1）観察調査

以下の内容について、短期入所中とその前後のどちらかの在宅療養期間に、一定のフォーマットを用いて観察調査を行った。

- 対象者に行われているすべてのケアの種類
- ケアの内容（行動・言葉）
- 対象者の反応
- ケア提供者
- 時間（準備、実施、後片付けを分けて）

調査時間は、9時30分～17時30分を原則としたが、在宅での調査は対象者並びに家族の了承が得られた範囲で行い、承諾が得られた者については24時間観察調査を行った。

調査期間は、平成１２年８月とした。

2）介護保険の居宅介護計画（ケアプラン）等と老人保健施設での社会的コスト調査

対象となる６名の在宅でのサービス全体の社会的コストと、ショートステイの老人保健施設での社会的コストを調査した。

3）分析

観察調査で得られたデータのうち、同一対象者について施設ならびに在宅の同一時間帯・時間数について、以下の視点でデータを整理し、移動可能な痴呆性要介護者の群と寝たきりの痴呆性要介護者の群で施設と在宅での実態の比較検討を行った。

① 要介護者の姿勢
② 要介護者に提供されたケア内容とそのケアに要した時間
③ 要介護者に直接ケアが提供された時間と見守り・監視などに要した時間
④ 社会的コスト

III　研究結果

1．対象者の概要

対象者のプロフィールの概要は、表１の通りである。６名とも中程度から重度の痴呆（厚生省痴呆性疾患調査研究班　痴呆性老人の日常生活自立度判定基準で痴呆度Ⅲ・Ⅳ）があるが、日常生活自立度では、Ａ・Ｂ・Ｃの３名は、Ｂランク（屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッド上での生活が主体であるが、座位を保つ）で、「目を離せない痴呆群」であり、Ｄ・Ｅ・Ｆは、寝たきり度Ｃ（１日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替えにおいて介助を要する）に該当する「寝たきり痴呆群」であった。６名の対象者の介護保険での要介

護度は、４～５であった。

在宅での介護状況は表の通りで、B氏の場合は家族介護者である娘が病弱であることや仕事をしていることで日中のほとんどの介護をヘルパーに任せていた。他の５名はヘルパーやデイサービスなど他のサービスを利用していたが、家族介護者(娘３名、妻１名、甥１名）がほとんどの介護を行っていた。老人保健施設のショートステイは、６名全員が在宅介護を継続するための手段の一つとして、主たる介護者である家族の休養を目的として利用していた。

年齢は、F氏（６６歳）を除いては、80・90歳台であった。主疾患は、表の通り多様であった。

２．在宅と施設でのケアの実際・比較

1)　日中の姿勢

要介護者が日中どのような姿勢で過ごしているかを比較した。寝たきりではなくその人にあった姿勢で過ごしているかどうかは要介護者のＱＯＬに大いに関係するからである。その結果は図１の通りであった。

まず第１に、寝たきり痴呆群では一見して施設・在宅とも臥位時間が長く座位時間が非常に少ないという傾向が見られた。在宅と施設での姿勢を比較すると、在宅では臥位の時間が長く日常生活のほとんどをベッド上で過ごしているのに対し、施設では在宅に比べて車椅子に座り座位でいる時間が観察された。特にF氏の例は著明で、在宅では一日中臥床（寝たきり状態）しているのに対して、施設では昼食時には車椅子乗車で食堂に移動して食事を摂取しており、その後も臥位だけではなくベッドアップにより姿勢に変化を持たせていた。また、D氏もベッド上でのベッドアップだけではなく、食事は車椅子に座って食堂で摂取していた。

これは、在宅では家族介護力の量と質が要介護者の生活の姿勢に大きく影響していることを示している。F氏は主介護者である妻と二人暮らしである。妻は体力的に頻繁な体位変換や車椅子への移動は困難であった。しかし、一日数回の車椅子への移動のために訪問介護（ヘルパー）をケアプランに入れると支給限度額を超過してしまうこと、さらに妻は１割の利用料の自己負担が大きくて現行以上のサービスは利用できないと述べている。つまりF氏の場合、在宅での寝たきり状況を作り出している要因として、家族介護力の貧しさと経済的問題が挙げられた。しかしながら、F氏は週４回のヘルパー利用をしており、現行サービスの範囲の中で姿勢を調整する余地が残されている。臥位のままでいることのデメリットについての家族教育や、ヘルパーの活用法などを含めて、施設へのショートステイ時に在宅療養生活に何らかの影響を与える看護が求められているといえよう。

第２に、「目を離せない痴呆群」では、在宅では状況に応じて座位や臥位を組み合わせながら過ごしているのに対し、施設で